

Ⅲ 作物別主要病害虫の発生動向、発生原因の解析及び防除概要

1 発生経過、発生原因及び防除の概要

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
イネ	葉いもち	平年：並 前年：遅い	平年：やや多 前年：やや多	発生は平年よりやや多かった。	いもち病の有効成分が含まれた箱施用剤が普及している。また気温が高く特に助長される気象ではなかったと考えられるが、一部で発生が多かった。	長期残効性の箱施用剤による防除が実施された。
	穂いもち	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生はみられなかった。	降雨が少なかったため、発生しにくかったと考えられる。	出穂期を中心に防除が実施された。
	紋枯病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：やや少	発生は平年よりやや少ないものの、一部発生が多い場所も見られた。	紋枯病の有効成分が含まれた箱施用剤の普及により、発生が抑制されたと考えられる。しかし、一部ほ場では夏期の高温により、発生が増加した。	長期残効性の箱施用剤による防除が実施された。
	白葉枯病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生はみられなかった。	近年発生がみられておらず、伝染源が少ないと考えられる。	長期残効性の箱施用剤による防除が実施された。
	もみ枯細菌病（もみ枯症）	平年：並 前年：－	平年：やや少 前年：やや少	発生は平年よりやや少なかった。	高温により発生しやすい環境となったが、降雨が少なく発生は少なかった。	長期残効性の箱施用剤による防除が実施された。
	ごま葉枯病	平年：早い 前年：早い	平年：多 前年：並	発生は平年より多かった。	本病は近年発生が増加傾向にある。夏期の高温や地力低下などが原因と考えられる。	土壌改良剤の施用及び葉剤散布が実施された。
	黄化萎縮病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生はみられなかった。	近年発生がみられておらず、伝染源が少ないと考えられる。	本病対象の防除は行われなかった。
	ばか苗病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	巡回調査では発生はみられなかった。	種子更新及び種子消毒により、抑制されたと考えられる。	種子消毒が実施されている。
	稲こうじ病	平年：並 前年：遅い	平年：多 前年：多	発生は平年より多かった。	気温が高く、特に発生しやすい気象ではなかったが、一部で発生が多い場所が見られた。	本病を対象とした防除を行っていないほ場が多い。
	葉しょう褐変病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生はみられなかった。	近年発生がみられておらず、伝染源が少ないと考えられる。	本病対象の防除は行われなかった。
	縞葉枯病	平年：遅い 前年：並	平年：少 前年：少	発生は平年より少なかった。	ヒメトビウンカによる媒介が少なかったと考えられる。	長期残効性の箱施用剤が施用された。また、縞葉枯病多発地域ではヒメトビウンカの防除の実施、抵抗性品種の導入が進められた。
	萎縮病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生はみられなかった。	近年発生がみられておらず、伝染源が少ないと考えられる。	長期残効性の箱施用剤が施用された。また、葉剤防除が実施された。
	ヒメトビウンカ	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	たたく落とし調査による捕獲数は平年より少なかった。予察灯による誘殺数も平年よりやや多く推移した。	近年、発生量・発生面積が減少傾向にある。	長期残効性箱処理剤が使用された。縞葉枯病多発地域では抵抗性品種が導入されている。
	ソマグロヨコバイ	平年：遅い 前年：並	平年：少 前年：少	たたく落とし調査による捕獲数は平年よりやや少なかったが、予察灯の誘殺数は平年並で推移したが、一部地域では平年より多く推移した。	防除を行った水田では発生が抑えられており、ほ場により発生量に差があると考えられる。	長期残効性箱処理剤が使用された。
	ニカメイガ	平年：遅い 前年：遅い	平年：やや多 前年：やや多	巡回調査では平年よりやや多かった。予察灯およびフェロモントラップによる誘殺数も、平年より多い傾向であった。	近年、発生は少なく推移していたが、飼料米等、多様な品種が防除圧の低い中で栽培されており、発生の増加が懸念される。	長期残効性箱処理剤が使用された。
	セジロウンカ	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	たたく落とし調査による捕獲数は平年よりやや少なかった。予察灯による誘殺数は、平年より少なく推移した。	効果の高い長期残効性箱処理剤の導入により増殖が抑えられた。	長期残効性箱処理剤が使用された。
	トビロウンカ	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	たたく落とし調査による捕獲はなかった。予察灯の誘殺数は誘殺は見られなかった。	飛来量が平年より少なかったことに加え、効果の高い長期残効性箱処理剤の導入により増殖が抑えられた。	本種に効果の高い長期残効性箱処理剤が使用された。また、本田における防除が実施された。
	斑点米カメムシ	平年：並 前年：並	平年：多 前年：多	5～7月の畦畔雑草すくい取り調査による捕獲数は平年より少ない～多く、8～9月の水田内のすくい取り調査でも平年よりやや多かった。優占種はアカスジカメムシ、アカヒゲホソミドリカメムシ、成熟期にはミナミアオカメムシ、イネカメムシ。予察灯では平年より多く誘殺された。	気温が高かった影響により増殖が促進されたと考えられる。また、本田防除が徹底されないほ場や周囲のほ場が収穫された地点では、発生が増加した。	本田防除が出穂期以降1～2回実施された。
	イチモンジセセリ	平年：遅い 前年：遅い	平年：少 前年：少	発生は平年より少なかった。	薬剤散布により発生が抑制された。	発生地域では本田防除が実施された。
	アヲヨトウ	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生はみられなかった。	近年、少発生で経過している。	対象とした防除はほとんど行われていない。
コブノメイガ	平年：並 前年：並	平年：多 前年：少	発生は平年より多かったが、多発した昨年よりは少なかった。	飛来量がやや多かったと考えられる。	発生地域では本田防除が実施された。	
イネミズゾウムシ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：少	発生は平年並だった。	長期残効性箱処理剤により発生が抑制された。	長期残効性箱処理剤が使用された。	
イネドロオヒムシ	平年：並 前年：－	平年：多 前年：多	発生は平年より多かった。	例年、発生は常発地域のみである。	箱処理剤が使用された。	
スクミリンゴガイ	平年：並 前年：並	平年：多 前年：多	県内各地で発生面積が拡大している。巡回調査では発生が平年より発生が多かった。	近年、分布が拡大傾向にあり、温暖化により越冬量が増加している。	発生地では耕種防除が実施され、一部では本田防除が実施された。	
フタオビコヤガ	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	発生は平年より少なかった。	近年被害が増加傾向にある。	多発の場合、防除が実施されることもある。	
イネクロカメムシ	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	巡回調査では発生はみられなかった。	例年発生はない。	対象とした防除はほとんど行われていない。	

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
コムギ	さび病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	発生は平年より少なかった。	前年の発生少なく、初期密度が低く押さえられ、その後の増加も少なかった。	栽培層で2回の薬剤散布を推奨している。
	うどんこ病	平年：遅い 前年：並	平年：少 前年：少	発生は平年より少なかった。	前年の発生少なく、初期密度が低く押さえられ、その後の増加も少なかった。	栽培層で2回の薬剤散布を推奨している。
	赤かび病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	発生は平年より少なかった。	降雨が少なかったため、発生も少なかった。	概ね薬剤散布が2回実施されている。
	黒穂病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生はみられなかった。	例年発生はない。	種子消毒が行われている。
	ハモグリバエ類	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	巡回調査では平年より少ない発生であった。	例年4月にピークを迎え、5月には減少する。	本虫に対して薬剤散布はあまり実施されていない。
	アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	巡回調査では平年より少ない発生であった。	今年は平年より少ない発生であった。なお、多発した場合であっても、天敵類の活動により最終的な密度は下がる。	本虫に対して薬剤散布はあまり実施されていない。
かんしょ	ハスモンヨトウ	平年：－ 前年：並	平年：少 前年：並	発生は認められなかった。	初夏～夏期の発生は例年少ない。	本虫対象の防除はほとんど実施されなかった。
	シロイチモジヨトウ	平年：やや遅い 前年：並	平年：並 前年：やや多	7月に発生が認められた。	近隣に夏ネギ栽培ほ場があり、成虫の飛来があったと推察される。	本虫対象の防除はほとんど実施されなかった。
	ナカジロシタバ	平年：並 前年：並	平年：多 前年：多	6月の発生量が平年よりも多かった。	気温が平年よりも高く、発生が助長された。	本虫を対象に1～2回の防除が実施された。
	エビガラスズメ	平年：並 前年：－	平年：多 前年：多	6月の発生量が平年よりも多かった。	気温が平年よりも高く、発生が助長された。	本虫対象の防除は実施されなかった。
	イモキバガ	平年：少 前年：並	平年：少 前年：多	7月に最も発生が多かったが、平年に比べ少なかった。	7月の気温が平年よりも高く、発生が抑制されたと考えられる。	本虫対象の防除は実施されなかった。
	ヒルガオハモグリガ	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	発生確認されなかった。	例年、発生は認められない。	本虫対象の防除は実施されなかった。
茶	炭疽病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：やや少	春先の罹病残葉を含め6月までは平年より少なく推移した。7月は平年を上回ったが、8月以降は平年よりも少なくなかった。	7月以降の新芽生育期に発病に好適な降雨が少なく、高温が続いたためだと考えられる。	一番茶以降の防除は圃場によって大きな差があり、完全に放任されている圃場から適切に管理されている圃場まで様々であった。
	輪斑病	平年：並 前年：並	平年：多 前年：多	3月の越冬病斑に加え、6月から9月の発生は平年よりも多く推移した。	6月から9月の気温が高く推移したため。	一番茶以降の防除は圃場によって大きな差があり、完全に放任されている圃場から適切に管理されている圃場まで様々であった。
	新梢枯死症	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	8月までの発生量は少なかったが、9月以降は平年並か平年よりも多く推移した。	8月以降気温が高く推移したため、発生が助長されたと考えられる。	一番茶以降の防除は圃場によって大きな差があり、完全に放任されている圃場から適切に管理されている圃場まで様々であった。
	もち病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	6月に平年より少ない発生が見られたが、7月以降の発生は認められなかった。	7月以降気温が適温よりも高く推移したため発生が抑えられたと考えられる。	一番茶以降の防除は圃場によって大きな差があり、完全に放任されている圃場から適切に管理されている圃場まで様々であった。
	網もち病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	発生は認められなかった。	例年、発生ほとんど見られない。	本病を対象とした防除は実施されていない。
	赤焼病	平年：並 前年：－	平年：少 前年：やや多	4月に平年よりも少ない発生が見られたが、春先や秋には発生は認められなかった。	品種「やぶきた」の成木圃場では、例年発生は少ない。	幼木圃場を中心に、本病の防除が実施された。
	褐色円星病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	発生量は平年に比べ少なかった。	近年、4月の発生ほ場率は、ほぼ100%で高止まりである。	多発ほ場では、三番茶開葉期に防除が実施された。
	チャハマキ	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	春に越冬幼虫の発生が平年に比べやや多かったが、その後の発生は平年より少なかった。	前年秋の発生が多く、越冬世代の発生が多かったが、夏期の高温少雨により夏期以降の発生が少なかった。	フェロモントラップ等を用いた成虫の発生調査に基づき、各世代の幼虫発生期に薬剤による防除が行われた。
	チャノコカクモンハマキ	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	春に越冬幼虫の発生が平年に比べ多かったが、その後の発生は平年よりも少なかった。	前年秋の発生が多く、越冬世代の発生が多かったが、夏期の高温少雨により夏期以降の発生が少なかった。	フェロモントラップ等を用いた成虫の発生調査に基づき、各世代の幼虫発生期に薬剤による防除が行われた。
	チャノホソガ	平年：やや遅い 前年：遅い	平年：少 前年：少	発声は平年に比べやや遅かった。発生量は平年よりも少なかった。	近年、本種の発生は少ない。	二番茶以降の新芽生育初期に他の害虫との同時防除が行われた。
	ヨモギエダシヤク	平年：やや遅い 前年：遅い	平年：多 前年：やや多	8月の発生が、平年よりも多かった。	気温が平年よりも高く推移し、本種の発生が助長された。	春先や、一番茶摘採後に薬剤防除が行われている。秋はハマキガと同時防除された。
	カンザワハダニ	平年：やや早い 前年：やや遅い	平年：やや多 前年：少	4月の発生は平年並で、5月に平年よりもやや多い発生だった。7月に終息したものの、8月は再び平年よりもやや多い発生となった。	暖冬と、夏期の高温・少雨で発生が助長された。	春先や、一番茶摘採後に薬剤防除が行われている。また、夏期の多発により、8～9月にも防除が実施された。
クワシロカイガラムシ	平年：遅い 前年：遅い	平年：並 前年：やや多	夏期までは、平年に比べ少発生だったが、10月の発生が平年並となった。	気温が平年よりも高く、高温により夏期の発生が抑制されたと推察される。	越冬期の2月に幼若ホルモン系殺虫剤を散布した茶園は防除効果が高い。幼虫期の除越冬判定に有効積算温度法が活用された。	
チャノキイロアザミウマ	平年：遅い 前年：並	平年：多 前年：並	8月の発生が平年に比べて多かった。	夏期に降雨が少なく、8月の発生が助長された。	二番茶生育期と二番茶以降の新芽生育初期に薬剤防除が実施された。	
チャノミドリヒメヨコバイ	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	発生は、平年並～少発生だった。	夏期の高温により、発生が抑制されたと推察される。	二番茶生育期と二番茶以降の新芽生育初期に薬剤防除が実施された。	
コミカンアブラムシ	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	平年に比べ発生は少なかった。	断続的な豪雨により、本種の発生が抑制された。	二番茶生育期と二番茶以降の新芽生育初期に薬剤防除が実施された。	

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
	ツマグロアオカスミカメ	平年：遅い 前年：遅い	平年：少 前年：少	平年に比べやや少発生だった。	春期の断続的な降雨により、本種の発生が抑制された。	二番茶生育期と二番茶以降の新芽生育初期に薬剤防除が実施された。
	チャノナガサビダニ	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	5月に発生が認められたが、平年よりも少なかった。	春期の断続的な降雨により、本種の発生が抑制された。	二番茶生育期と二番茶以降の新芽生育初期に薬剤防除が実施された。
	マダラカサハラハムシ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：多	8～10月に発生が認められ、平年並の発生だった。	春期に越冬成虫は確認されなかったが、新成虫は平年並の発生だった。	多発園では、一番茶前及び秋期に防除が実施された。
	チャトゴコナジラミ	平年：並 前年：並	平年：少 前年：やや多	平年に比べ少発生だった。	近年、発生程度は減少傾向である。	二番茶生育期と二番茶以降の新芽生育初期に他の害虫と同時防除が実施された。
	チャノホコリダニ	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	発生は認められなかった。	近年、発生は少ない。	本種を対象とした防除は、特には実施されなかった。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
温州みかん	黒点病	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：少	7月以降、多くの園地で発生がみられた。	夏期の高温で枯枝が増え、伝染源となった。	定期的な薬剤散布が行われた。
	かいよう病	平年：並 前年：並	平年：多 前年：多	葉、果実ともに平年より多かった。	近年、発生が多く、ほ場内での発生源が増加していると考えられる。	防除は3～4回行われた。
	そうか病	平年：並 前年：並	平年：多 前年：やや少	6月に葉での発生が多かった。	近年、発生が多く、ほ場内での発生源が増加していると考えられる。	4月～5月に防除が行われた。
	青かび病・緑かび病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：少	発生は平年並だった。	薬剤防除が行われた。	収穫前に薬剤散布が行われた。
	褐色腐敗病	平年：並 前年：並	平年：多 前年：多	樹上果、落果ともに11月に発生が多かった。	夏期の高温で果皮が傷んだ可能性がある。	台風等の暴風雨後に薬剤散布が行われた。
	ミカンハダニ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	春先及び夏秋季に発生が増加した。	高温少雨により発生が助長されたと考えられる。	冬季～6月にマシン油、夏秋季に必要なに応じてダニ剤が散布された。
	チャノキイロアザミウマ	平年：やや早い 前年：並	平年：多 前年：多	7月に果実への寄生が平年より多く、8～10月に被害が増加した。	高温少雨により発生が助長されたと考えられる。	防除は6～9月に行われた。
	ヤノネカイガラムシ	平年：やや早い 前年：並	平年：少 前年：少	葉及び果実への寄生は平年より少なかった。	防除園地では発生が抑えられた。	冬季のマシン油散布と寄生枝の除去が実施された。
	ナシマルカイガラムシ	平年：並 前年：並	平年：多 前年：多	例年発生はみられないが、令和7年は発生が多かった。	本種に適用のある農薬の失効や高温少雨により発生が助長されたと考えられる。	冬季にマシン油が散布された。
	ルビーロウムシ・ツノロウムシ	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	ツノロウムシは平年より少なかった。ルビーロウムシは7～8月に平年よりやや多かった。	防除園地では発生が抑えられた。	夏季に薬剤防除が行われた。
	イセリヤカイガラムシ	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	平年より少なかった。	防除園地では発生が抑えられた。	夏季に薬剤防除が行われた。
	カメムシ類	平年：やや早い 前年：やや早い	平年：やや多 前年：やや多	7月頃までの越冬成虫の発生は平年より多かったが、8月以降の当年世代は平年より少なかった。	ヒノキ着果量は平年より少なく、当年世代の発生は抑えられ、夏以降に被害は発生しなかった。	病害虫防除所からの注意報、予察情報をもとに、薬剤防除が行われた。
	アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	全般的に発生は平年より少なかった。	他害虫の薬剤防除で本種の発生が抑えられた。	防除は行われていない。
	ハマキムシ類	平年：やや早い 前年：並	平年：やや少 前年：やや少	5月に発生がやや増加したものの、年間での発生はやや少なかった。	他害虫の薬剤防除で本種の発生が抑えられた。	多発園地では薬剤散布が行われた。
ミカンサビダニ	平年：— 前年：—	平年：並 前年：並	発生はみられなかった。	例年発生は少ない。	多発園地では薬剤散布が行われた。	
中晩柑類	かいよう病	平年：並 前年：並	平年：多 前年：多	葉、果実ともに平年より多かった。	近年、発生が多く、ほ場内での発生源が増加していると考えられる。	春先・降雨前に銅剤散布が行われた。
なし	黒斑病	平年：— 前年：—	平年：並 前年：並	発生はみられなかった。	例年発生をみない。	幸水・豊水では、本種を対象とした防除は行われていない。
	赤星病	平年：やや遅い 前年：早い	平年：多 前年：多	5月に一部園地で発生がみられた。	防除園地では発生は抑えられている。	3月下旬～4月に防除が行われた。
	黒星病	平年：並 前年：並	平年：多 前年：並	一部園地で5月に果実と葉、7月に葉での発生がみられた。	防除園地では発生は抑えられている。	3月下旬～7月に防除が行われた。
	ナシヒメシロイ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	発生はみられなかった。	薬剤防除が行われた。	5～8月に防除が行われた。
	ナシチビガ	平年：— 前年：—	平年：並 前年：並	発生はみられなかった。	例年発生は少ない。	防除は行われていない。
	カメムシ類	平年：やや早い 前年：やや早い	平年：やや多 前年：やや多	7月頃までの越冬成虫の発生は平年より多かったが、8月以降の当年世代は平年より少なかった。	ヒノキ着果量は平年より少なく、当年世代の発生は抑えられ、夏以降に被害は発生しなかった。	病害虫防除所からの注意報、予察情報をもとに、薬剤防除が行われた。
	アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	4～7月にかけて平年より少なかった。	防除園地では発生が抑えられた。	4～5月に薬剤防除が行われた。
	ハマキムシ類	平年：やや早い 前年：並	平年：少 前年：少	発生は少なかった。	例年発生は少ない。	4～8月に薬剤防除が行われた。
	ハダニ類	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：やや少	発生は少なかった。	薬剤防除が行われた。	6～7月に薬剤防除が行われた。
かき	落葉病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：多	9月に多くの園地で発生がみられた。	ほ場間で発生量に差が大きく、発生ほ場での菌密度の増加が考えられる。	5月下旬～7月上旬に防除が行われた。
	うどんこ病	平年：— 前年：—	平年：少 前年：少	発生はみられなかった。	夏期の高温により、発生が抑制された。	4月下旬～9月上旬に防除が行われた。
	カメムシ類	平年：やや早い 前年：やや早い	平年：やや多 前年：やや多	7月頃までの越冬成虫の発生は平年より多かったが、8月以降の当年世代は平年より少なかった。	ヒノキ着果量は平年より少なく、当年世代の発生は抑えられ、夏以降に被害は発生しなかった。	病害虫防除所からの注意報、予察情報をもとに、薬剤防除が行われた。
	カキノヘタムシガ	平年：— 前年：—	平年：並 前年：並	発生はみられなかった。	例年発生は少ない。	8月に防除が行われた。
	チャノキイロアザミウマ	平年：— 前年：—	平年：少 前年：並	発生はみられなかった。	適期防除が行われた。	6～8月に防除が行われた。
	カキクダアザミウマ	平年：— 前年：—	平年：少 前年：並	発生はみられなかった。	例年発生は少ない。	6～8月に防除が行われた。
	フジコナカイガラムシ	平年：早い 前年：やや早い	平年：やや少 前年：やや少	平年よりやや少なかった。	適期防除が実施された。	6月と8月に防除が行われた。
	ハマキムシ類	平年：やや早い 前年：並	平年：やや少 前年：やや少	平年よりやや少なかった。	適期防除が実施された。	4月、7月に防除が行われた。
	ハダニ類	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	平年より少なかった。	適期防除が実施された。	5～6月に防除が行われた。
キウイフルーツ	かいよう病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：多	平年よりやや少なかった。	罹病樹の伐採や薬剤散布などの対策が行われた。	4～5月に防除は2回程度行われた。
	花腐細菌病	平年：— 前年：—	平年：— 前年：—	発生はみられなかった。	例年発生は少ない。	かいよう病との同時防除が行われた。
	疫病	平年：遅い 前年：並	平年：少 前年：少	6月上旬に一部ほ場で発生がみられた。	適期防除により発生は概ね抑えられていたが、降雨により一部ほ場で発生した。	予防的防除を含め、3～5月に防除が行われた。
	ウイルス病	平年：— 前年：—	平年：— 前年：—	発生はみられなかった。	例年発生は少ない。	媒介虫であるアブラムシの防除が行われた。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
ばれいしょ	ニジュヤホシテン トウムシ	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生はみられなかった。	例年発生は少ない。	防除は行われていない。
	ジャガイモガ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	発生はみられなかった。	防除ほ場では発生が抑えられた。	薬剤防除、収穫物への寒冷紗の被覆、残さの放置をしないなどの対策を行っている。
	アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	4月は平年より少なかったが、5月は平年より多かった	防除ほ場では発生が抑えられた。	薬剤防除が実施された。
	食葉性ヤガ類	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	平年より少なかった。	例年発生は少ない。	ヨトウガ主体の防除はほとんど行われていない。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
ねぎ	さび病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	発生は認められなかった。	近年の発生が少ない影響で、伝染源密度が低かったものと推定される。	本病対象の防除はほとんど行われていない。
	萎縮病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	発生は認められなかった。	近年、発生は認められていない。	育苗期から定植時に、媒介虫であるアブラムシ類の防除が実施された。
	黒斑病、葉枯病	平年：並 前年：並	平年：多 前年：多	10月までは平年より多く発生したが、11月以降は平年より少なくなかった。	夏期間は8月下旬の台風により平年よりも発生したが、11月以降は発生に好適な降雨が少なく、発生が抑制された。	平年並の防除はされている。
	疫病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	発生は認められなかった。	近年、発生は少ない。	多雨時期に、本病を対象とした防除が実施された。
	べと病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	発生は認められなかった。	例年発生が見られない。	本病対象の防除は行われていない。
	ハスモンヨトウ	平年：並 前年：やや早い	平年：多 前年：やや少	8月及び10月に発生が認められ、発生量は平年よりも多かった。	夏期の少雨により、発生が助長された。	シロイチモジヨトウと同時防除が行われた。
	シロイチモジヨトウ	平年：並 前年：並	平年：多 前年：少	8～11月に発生が認められ、発生量が平年よりも多かった。	夏期の高温、少雨により発生が助長された。	防除回数が平年よりも多かった。
	アブラムシ類	平年：並 前年：－	平年：多 前年：多	8月に発生が認められた。	近年発生はほとんど認められない。	育苗期に薬剤による防除が実施された。本場における防除は特に行われなかった。
	ネギハモグリバエ	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	10月に最も発生が多くなったが、発生量は平年よりも少なかった。	夏期の高温により9月まで発生が抑制されたが、10月には発生が増加した。	定植後から秋期まで、定期的な防除が実施されている。
	ネギアザミウマ	平年：早い 前年：並	平年：多 前年：やや少	調査期間を通じて、発生量は平年よりも多かった。	夏期からの高温、少雨により発生が助長された。	定植直後に防除が実施されたが、その後は発生状況に応じて実施されている。
	ヨトウガ	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	調査期間を通して発生は確認されなかった。	近年ほとんど発生が認められない。	定植直後に他の害虫と同時に防除が実施された。
たまねぎ	さび病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	栽培期間を通じて発生は認められなかった。	例年発生は少ない。	対象とした防除はあまり行われていない。
	ボトリチス菌による葉枯れ	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	発生は見られなかった。	栽培期間中の少雨により発生が抑制されたと推察される。	対象とした防除はあまり行われていない。
	白色疫病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	発生は見られなかった。	本病は近年発生が少ないため、伝染源密度が極めて低いものと推察される。	対象とした防除はあまり行われていない。
	灰色腐敗病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	栽培期間を通じて発生が認められなかった。	本病は近年発生が少ないため、伝染源密度が極めて低いものと推察される。	平年並の防除が実施された。
	腐敗病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	発生は見られなかった。	栽培期間中の少雨により発生が抑制されたと推察される。	平年並の防除が実施された。
	べと病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	発生は見られなかった。	例年発生は少ない。	対象とした防除はあまり行われていない。
	シロイチモジヨトウ	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	調査期間を通じて発生は認められなかった。	本種の多発が予想されたことから、防除対策が講じられた。	生育前半に防除が行われた。
	ネギハモグリバエ	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	調査期間を通じて発生は認められなかった。	シロイチモジヨトウと合わせて防除が実施された。	例年、育苗期から生育前半に防除が行われている。
	ネギアザミウマ	平年：早い 前年：早い	平年：多 前年：多	発生程度は、2月以外は平年よりも多かった。	高温少雨により、発生が助長された。	例年、育苗期から生育中期に防除が行われている。
	アブラムシ類	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	調査期間を通じて発生は認められなかった。	例年発生は少ない。	育苗期から生育前半に防除が行われている。
冬春トマト	疫病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	発生は認められなかった。	降雨が少なく、乾燥により発生しにくい環境であった。	下葉の除去及び薬剤防除が行われた。
	灰色かび病	平年：遅 前年：遅	平年：やや少 前年：少	発生は平年よりやや少なかった。	降雨が少なく、乾燥により発生しにくい環境であった。	下葉の除去、発生初期の発病葉のすみ取り及び薬剤防除が行われた。
	モザイク病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生は認められなかった。	アブラムシの発生もなく、近年発生が少ない。	特に防除は行われなかった。
	斑点病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生は認められなかった。	近年、発生が少なく伝染源が少ない。	特に防除は行われなかった。
	輪紋病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生は認められなかった。	発生が認められず、伝染源が少ない。	主に、灰色かび病、葉かび病、すすかび病と同時防除が行われている。
	萎ちよう病	平年：遅 前年：遅	平年：少 前年：並	一部で発生がみられた。	抵抗性苗木を使用していない株で発生があった。ただし、養液栽培の普及などにより全体的な発生は少ない。	土耕栽培では土壌消毒が実施されている。また、抵抗性苗木を導入している。
	炭疽病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生は認められなかった。	静岡県では例年発生しない。	特に防除は行われなかった。
	葉かび病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：少	発生は平年よりやや少なかった。	抵抗性品種を栽培しているほ場でも葉かび病の発生がみられており、レースを打破している可能性がある。今年度は降雨が少なく、乾燥により発生しにくい環境であった。	抵抗性品種の利用、下葉の除去、発病葉のすみ取り及び薬剤防除が行われた。
	黄化葉巻病	平年：遅 前年：遅	平年：少 前年：少	発生は平年より少なかった。	耐病性品種の普及により被害が軽減された。	コナジラミに対する薬剤防除と防虫ネットによる侵入阻止、耐病性品種の利用、発病株の抜取りが行われた。
	コナジラミ類	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	発生は平年より少なかった。	生育期間中の高温により常に発生しやすい環境であったが、薬剤防除により発生が抑えられた。	苗時、定植時、定植後において薬剤防除が実施された。また、施設開口部に防虫ネットを張る侵入防止対策、施設内部における黄色粘着版の設置による発生状況の把握・防除対策がとられた。
	アブラムシ類	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	発生は認められなかった。	例年発生は少ない。	コナジラミ類に対する薬剤防除により同時防除された。
	ハダニ類	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：少	発生は認められなかった。	例年発生は少ない。	対象とした防除はあまり行われていない。
	ハモグリバエ類	平年：遅 前年：遅	平年：多 前年：多	発生は平年より多かった。	ごく一部のほ場で発生が認められた。	生育初期に数回の薬剤防除が実施された。
	ハスモンヨトウ	平年：並 前年：並	平年：多 前年：少	発生は平年より少なかった。	薬剤防除により発生が抑えられた。	天窓、側窓に防虫ネットが設置され、進入を抑制した。薬剤防除が実施された。
オオタバコガ	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	発生は認められなかった。	薬剤防除により発生が抑えられた。	防虫ネットの設置、ハスモンヨトウに対する薬剤防除により同時防除された。	

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
秋冬 ダイコン	白さび病（ワッカ症）	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	発生は平年より少なかった。	降雨が少なく、乾燥により発生しにくい環境であった。	常発地では予防散布が行われた。
	黒腐病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	発生は認められなかった。	例年発生は少ない。	薬剤の予防散布が実施された。
	黒斑細菌病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	発生は認められなかった。	降雨が少なく、乾燥により発生しにくい環境であった。	薬剤の予防散布が実施された。
	軟腐病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	発生は無かった。	例年、発生はほとんどない。	発生の原因となるキスジノハムシの防除や、銅剤等による防除が行われた。
	モザイク病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生は認められなかった。	媒介虫であるアブラムシ類の発生は多かったが、ウイルス保毒率は低かったとみられる。	アブラムシ類の薬剤防除が実施された。
	アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：多 前年：多	発生は平年より多かった。	気温が高く推移したことから、増殖が助長された。	年内に数回の薬剤防除が実施された。
	コナガ	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生は認められなかった。	薬剤防除により発生が抑えられた。	年内に数回の薬剤防除が実施された。
	ナモグリバエ	平年：遅 前年：遅	平年：少 前年：少	発生量は平年より少なかった。	薬剤防除により発生が抑えられた。	本種に対して効果の高い薬剤により防除された。
レタス	灰色かび病	灰色かび病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	発生は認められなかった。	近年、発生が少なく、伝染源が少ない。
	軟腐病	軟腐病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生は認められなかった。	近年、発生が少なく、伝染源が少ない。
	腐敗病	腐敗病	平年：並 前年：－	平年：少 前年：多	発生は平年より少なかった。	降雨が少なく、乾燥により発生しにくい環境であった。
	斑点細菌病	斑点細菌病	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：並	発生は平年よりやや少なかった。	薬剤防除により発生が抑えられた。
	萎黄病	萎黄病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	発生は認められなかった。	近年発生は見られない。
	菌核病	菌核病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：少	発生は平年並であった。	乾燥により胞子が飛散しやすい環境であった。
	べと病	べと病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	発生は認められなかった。	前年も少発生で、伝染源が少なかった。また気温が高く発生しにくい環境であった。
	モザイク病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	例年発生は認められていない。	媒介虫のアブラムシ類の発生は多かったものの、保毒虫は少なかったと考えられる。	アブラムシに対して被覆前の生育前期に薬剤防除が実施された。
	すそ枯病	すそ枯病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	発生は認められなかった。	近年、発生が少なく、伝染源が少ない。
	ビクベイン病	ビクベイン病	平年：遅 前年：遅	平年：やや少 前年：少	平年よりやや少ない発生であった。	気温が高く推移したため、発生しにくい環境であった。
	アブラムシ類	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	発生は認められなかった。	薬剤散布により発生が抑制された。	被覆前の生育前期に薬剤防除が実施された。
	ハスモンヨトウ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：少	発生は平年より少なかった。	薬剤散布により発生が抑制された。	育苗期や被覆前の生育前期に薬剤防除が実施された。
	ハモグリバエ類（ナモグリバエ）	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：－	発生は認められなかった。	近年発生は見られない。	本虫を対象とした防除は特には行われなかった。
ネキリムシ類	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生は認められなかった。	例年発生は見られない。	本虫を対象とした防除は特には行われなかった。	
キャベツ	黒腐病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	生育期間を通して、発生は認められなかった。	台風の襲来もなく、発病が促進されなかった。	平年並の薬剤防除は行われた。
	軟腐病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	生育期間を通して、発生は認められなかった。	台風の襲来もなく、発病が促進されなかった。	平年並の薬剤防除は行われた。
	菌核病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	生育期間を通して、発生は認められなかった。	薬剤防除により発生が抑えられた。	平年並の薬剤防除は行われた。
	べと病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	発生は認められなかった。	近年、発生は認められていない。	多雨時に薬剤防除が実施された。
	黒斑病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	発生は認められなかった。	薬剤防除により発生が抑えられた。	多雨時に薬剤防除が実施された。
	コナガ	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	発生は認められなかった。	夏期の高温により、発生が抑制された。	例年、育苗期から生育中期に防除が行われている。
	アブラムシ類	平年：遅い 前年：－	平年：多 前年：多	12月に発生が認められ、平年よりも多い発生だった。	栽培期間中の降雨が少なく、発生が助長された。	定植直後に防除が実施され、その後はチョウ目害虫と同時防除された。
	ハスモンヨトウ	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	発生量は平年よりも少なかった。	定期的な薬剤散布により、発生が抑制された。	育苗期から、定期的に薬剤による防除が実施された。
	シロイチモジヨトウ	平年：並 前年：並	平年：多 前年：多	10月に発生が認められ、平年よりも多い発生だった。	気温が平年よりも高く、降水量が少なかったため、発生が助長された。	育苗期から、定期的に薬剤による防除が実施された。
	モンシロチョウ	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	発生は認められなかった。	例年発生は認められない。	例年、育苗期から生育中期に同時防除されている。
	ヨトウガ	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	発生は認められなかった。	チョウ目害虫を対象とした防除が実施され、例年発生は認められない。	例年、育苗期から生育中期に同時防除されている。
	タマナギンウワバ	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	10、11月に発生が認められ、発生量は平年よりも多かった。	定期的な薬剤散布により、発生が抑制された。	例年、育苗期から生育中期に防除が行われている。
	オオタバコガ	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：少	10月に発生が認められ、発生量は平年よりもやや少なかった。	気温が平年よりも高く、発生が助長された。	例年、育苗期から生育中期に防除が行われている。
いちご	灰色かび病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	一部ほ場でわずかに発生したのみで、ほぼ発生が見られなかった。	近年、発生が少なく伝染源も少ない。適切に防除され、発生が抑制された。	定期的な薬剤散布が行われた。
	うどんこ病	平年：並 前年：早い	平年：多 前年：多	10～3月を通して発生が平年を上回った。多くのほ場で発生が見られ、一部ほ場では甚発生となった。	罹病部位の除去などの対策が遅れ、ほ場内での菌密度が高くなった。	定期的な薬剤散布と罹病した葉・果実の除去が行われた。
	炭疽病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	発生は平年より少なかった。	保護殺菌剤の使用、薬剤散布前のほ場の見回り及び罹病株の抜き取りが進んだ。	罹病株の抜き取りと定期的な薬剤散布が行われた。
	モザイク病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生は認められなかった。	例年発生は少ない。	防除は行われていない。
	角斑細菌病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	発生は認められなかった。	雨除け育苗により防除され、罹病苗の使用がなくなった。	防除は行われていない。
	萎黄病	平年：－ 前年：並	平年：－ 前年：並	一部のほ場で僅かに発生が見られた。	潜在感染株が本ほ場に持ち込まれた。	健全な親株の利用と土壌及び資材の消毒が行われた。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
	アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：やや少	平年よりやや少なかった。	発生初期に防除できなかったことで、ほ場により多発を招いた。	薬剤散布または天敵放飼が行われた。
	ハダニ類	平年：やや早い 前年：やや早い	平年：並 前年：並	10月は平年より多かったが、11月以降は平年並であった。	天敵放飼の時期が遅れたり、発生初期に薬剤散布できなかった。	天敵を利用したほ場では、天敵に対して影響の小さい薬剤が散布された。
	ハスモンヨトウ	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：やや少	平年よりやや少なかった。	施設内への飛び込み後に適切に薬剤防除が実施された。	定期的な薬剤散布が行われた。
	アザミウマ類	平年：やや早い 前年：やや早い	平年：やや多 前年：やや多	11～12月は平年より多かったが、1～3月は平年よりやや少なかった。	施設内への飛び込みが多く、発生初期における薬剤散布が徹底されなかった。	薬剤散布または天敵放飼が行われた。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
キク	白さび病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	発生は平年より少なかった。	降雨が少なく、発生が抑制されたと考えられる。	定期的な薬剤防除が行われた。
	黒斑・褐斑病	平年：遅 前年：－	平年：少 前年：少	発生は平年より少なかった。	降雨が少なく、発生が抑制されたと考えられる。	定期的な薬剤防除が行われた。
	ウイルス病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生は認められなかった。	媒介虫であるアザミウマ類の保毒虫率が低かったと考えられる。	アザミウマ類の薬剤防除が行われた。
	半身萎凋病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生は認められなかった。	伝染源が少なかったためと考えられる。	常発ほ場では土壌消毒が実施された。
	黒さび病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生は認められなかった。	例年発生はない。	発生がないので、対象にした防除は行われていない。
	えそ病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生は認められなかった。	近年発生はほとんどない。	アザミウマ類の薬剤防除が行われた。
	ハダニ類	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	発生は6月を除き平年より少なかった。	本種に対して効果の高い薬剤により防除された。	薬剤防除が実施された。
	アザミウマ類	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	発生は平年より少なかった。	本種に対して効果の高い薬剤により防除された。	親株ほ場および本ほ場で定期的な薬剤防除が実施された。
	アブラムシ類	平年：遅 前年：－	平年：並 前年：多	一部のほ場で発生が見られたが、全体的には発生は見られなかった。	本種に対して効果の高い薬剤により防除された。	数回の薬剤防除が実施された。
	カスミカメムシ類	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	発生は認められなかった。	本種に対して効果の高い薬剤により防除された。	薬剤防除が実施された。
	マメハモグリバエ	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	発生は認められなかった。	本種に対して効果の高い薬剤により防除された。	薬剤防除が実施された。
	ハスモンヨトウ	平年：並 前年：並	平年：多 前年：多	発生は平年より多かった。	本種に対して効果の高い薬剤により防除された。	数回の薬剤防除が実施された。
アワダチソウグンバイ	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生は認められなかった。	例年発生はない。	発生がないので、対象にした防除は行われていない。	